



助けて……っ！！

ゴッゴッ

クッスッ！！

クッスッ

クッスッ

無理やり  
捻じ込まれてくる  
いびつな生殖器

「あが…っ!!!」

私の腕くらいある  
その生殖器は

アソコが裂けそうな  
音を立てながら  
押し入ってきて…

「だめ…っ  
卵子…卵子はダメえっ!!!」

避妊出来ない…

子宮口を貫いて  
子宮壁を激しく  
打ち付けてきました

「エーテル…っ  
残ってないからあつ!!!」

今子宮の中に出されたら  
確実に「孕んでしまう」





助けて...っ!!

ゴッゴッ  
ゴッゴッ  
ゴッゴッ

ツツツ  
ツツツ  
ツツツ

ゴッゴッ  
ゴッゴッ  
ゴッゴッ

ゴッゴッ  
ゴッゴッ  
ゴッゴッ

ゴッゴッ  
ゴッゴッ  
ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

すでにエーテルを失った  
私の子宮ではその侵入を  
拒むことはできず…

化け物の滾った白濁液は  
あっという間に  
私の卵子たちを  
取り囲んで来たのです

卵膜は成す術もなく  
突き破られ

精子が卵核に  
喰い付かれた瞬間—

最後のエーテルを  
奪われていく  
卵子たちと  
無様に絶頂する私の—

完全な敗北を…  
意味していました—



×キ

受精卵は私の子宮の  
エーテルを餌に  
次々と成長し

次々と産まれて  
きたのです

何度も

×キ

×キ

×キ

×キ

×キ

×キ

何度も…

孕まされては産まされ…

私の子宮…

×キ

何度も

壊れ…ちゃ…う…

もう…

×キ

×キ

×キ

×キ

×キ

×キ

ゴキウ

ゴキウ

あれからどれくらい経ったのか…

私はかれこれ数十匹の怪物を出産し…

胸から絶えずエーテルを奪われながら細かい絶頂を繰り返していました…

コアクリスタルは損傷しても「扉」からエーテルを取り出す力は残っており…

簡単に消滅できない「天の聖杯」である私は…彼らにとって都合のいい「苗床」だったので

蠢く怪物を胎で感じながら…

私は大切な人達の名前をただ呟いていました…

「ヒル・カリちゃん…」

「レックス…」

ゴキウ

